

日光市環境基本計画重点プロジェクト

平成25年度実施状況報告書

日 光 市



目 次

1	はじめに	1
2	平成25年度プロジェクト別実施状況	1
	（1）光の環プロジェクト	2
	（2）水の環プロジェクト	7
	（3）資源の環プロジェクト	11
	（4）環境にっこの輪プロジェクト	15
3	今後の取り組み	19

1 はじめに

日光市は、連続する森林地帯が広がり、清流・湖沼・湿原などに代表される豊かな自然環境を有しています。しかし、近年の生活様式の変化により、その存続がおびやかされる状況にあります。

この環境を守り、未来に引き継いでいくために、事業者や滞在者を含む生活者一人ひとりが、環境負荷の少ない暮らし方に取り組むとともに、資源・エネルギーの有効活用を進める必要があります。こうした環境の保全と創造に関する施策を推進するため、市では平成21年度に「日光市環境基本計画」を策定し、また、平成22年度には「日光市環境基本条例」を制定しました。

条例において、毎年度、施策の実施状況を明らかにすると規定しており、これに基づき、日光市環境基本計画のなかで特に「重点プロジェクト」として掲げている事項について、実施状況を報告するものです。

2 平成25年度プロジェクト別実施状況

重点プロジェクトは4分野から構成されます。平成22年度から平成26年度までのファーストステップ期間（第1段階）に推進する項目は全部で44項目あり、平成25年度の実施状況は、「完了」が1項目、「実施」が40項目、「検討中」が1項目、「未着手」が2項目となっています。内訳は下表のとおりです。

	平成25年度 ファーストステップ実施状況			
	完了	実施	検討中	未着手
光の環プロジェクト	0	10	1	0
水の環プロジェクト	0	10	0	0
資源の環プロジェクト	0	11	0	0
環境にっこの輪プロジェクト	1	9	0	2
計	1	40	1	2

(1) 光の環プロジェクト 地球温暖化防止への貢献 ～低炭素社会づくりに向けて～

プロジェクトの目標

市民・市民団体・事業者・滞在者それぞれが、省資源・省エネルギーに取り組み、また、再生可能エネルギーの利用を促進することで、温室効果ガス排出量を削減し地球温暖化防止へ貢献する。

○指標

地球にやさしい行動推進(エコライフ・省資源)

1) 地球温暖化防止運動への参加 現状値* (単位) 22年度 23年度 24年度 25年度 26年度 最終31年度

1."とちぎ発"ストップ温暖化アクション(栃木県事業)への参加者	9,901	人	7,443	23年度から県事業の内容と集計方法が変更され、参加者数を指標として比較することが適当でなくなったため、比較を見合わせます。			20,000
2.ライトダウンキャンペーン参加団体	19	団体	26	9	6	8	250

2) 地球温暖化防止に関する環境学習の推進

1.地球温暖化防止学習会の開催	6	回	1	1	1	1	10
	293	人	200	24	30	113	500

温室効果ガス排出量の削減

3) 日光市役所環境配慮率先行動計画の推進

1.市施設の温室効果ガス排出削減	(H19年度) 29,832 注1)	t	27,869	24,971	26,453	26,333	25,357 (15%削減)
2.低公害車(庁用車)保有台数	注2) 7	台	19	21	25	30	10%
	1.4	%	4.0	4.5	5.4	6.5	

注1) 平成25年度日光市役所環境配慮率先行動計画点検結果報告書の数値見直しに合わせ、平成19年度から平成24年度の値を修正しています。これに伴い最終31年度の15%削減の目標トン数も修正しています。

注2) 総合計画の成果指標のカウント方法に合わせ、特殊車両として水素燃料自動車及び電気自動車を含んだ値に修正しています。

4) 低炭素社会への取り組み

1.市全域からの温室効果ガス排出削減	(H18年度) 676,853	t	655,908 3.1%削減	739,379 9.2%増	755,392 11.6%増		609,168 (10%削減)
--------------------	--------------------	---	-------------------	------------------	-------------------	--	--------------------

国のデータ公開時期の都合により、現時点で1年度前までしか算定できません。

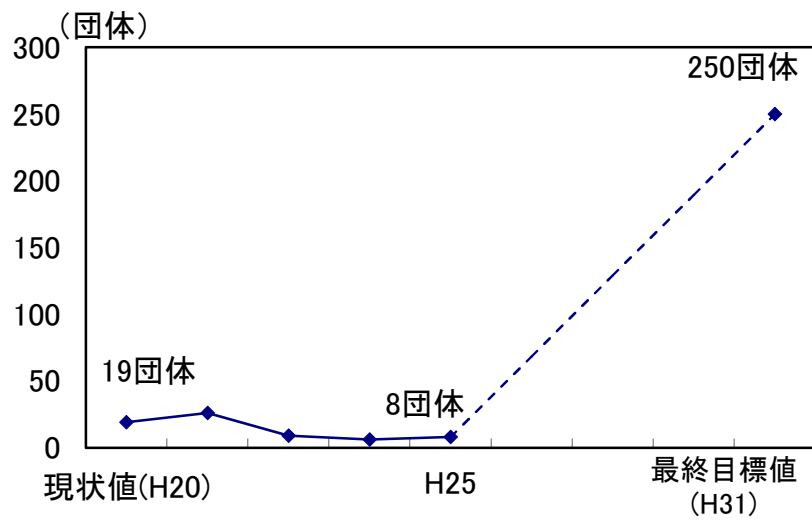
再生可能エネルギー利用の推進

5) 太陽光発電システムの導入促進

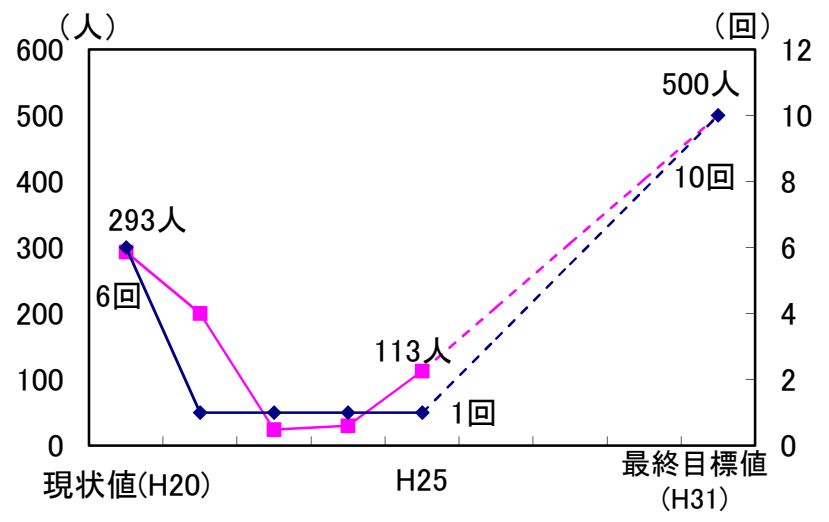
1.住宅用太陽光発電システム設置補助数(累計)	111	件	303	462	679	872	1,255
2.市施設への太陽光発電システムの導入(累計)	1	施設	2	4	4	5	12
	100	kw	104	254	254	274	300

現状値*) 特に年度記載がない場合は、平成20年度値を採用しています。以降、いずれのプロジェクトも同様です。

【指標名】1-2. ライトダウンキャンペーン参加団体

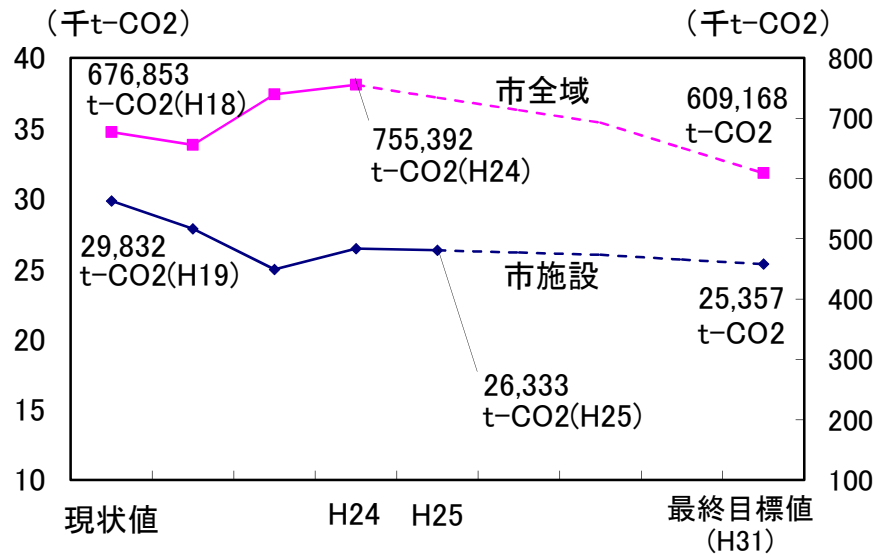


【指標名】2-1. 地球温暖化防止学習会の開催

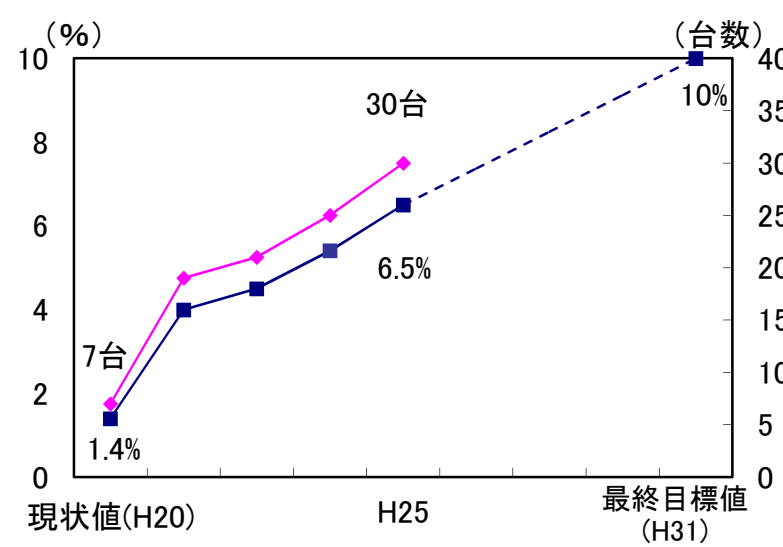


【指標】3-1. 市施設の温室効果ガス排出削減

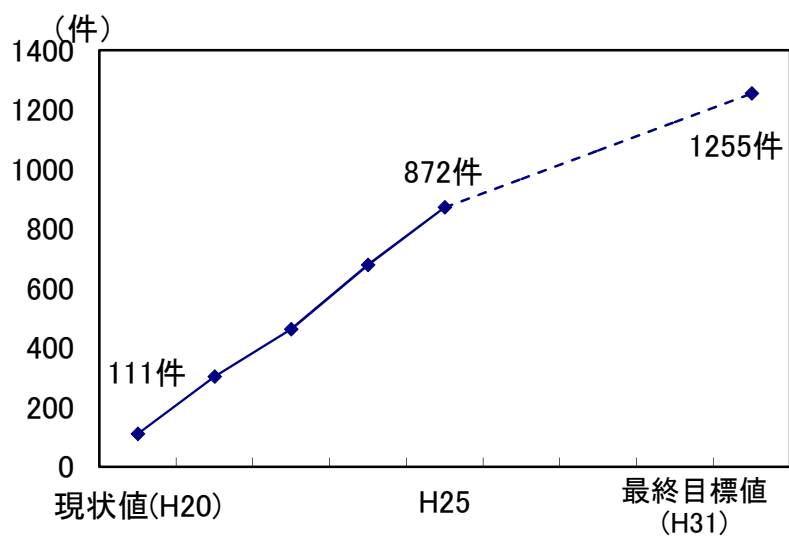
4-1. 市全域からの温室効果ガス排出削減



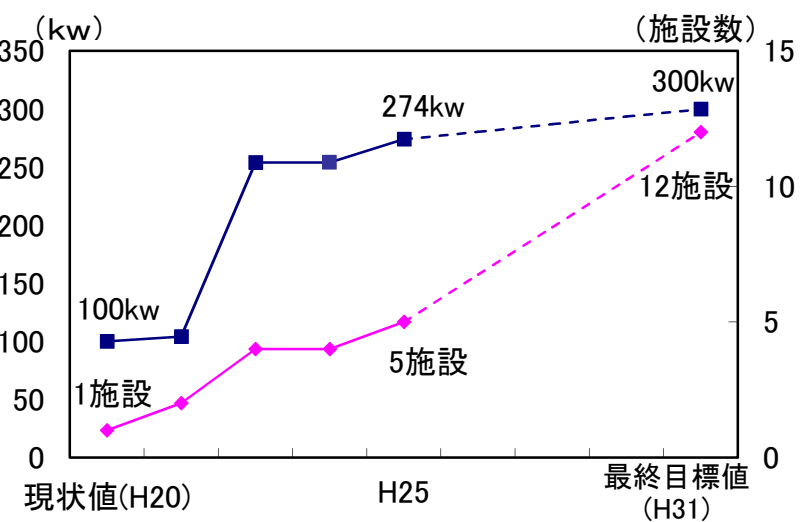
【指標名】3-2. 低公害車（庁用車）保有台数



【指標名】5-1. 住宅用太陽光発電システム設置補助数（累計）



【指標名】5-2. 市施設への太陽光発電システムの導入（累計）



～～ 目標値に対する成果の状況 ～～

おおむね順調に成果が上がっています。特に「5-1. 住宅用太陽光発電システム設置補助数」は最終的には目標値を上回りそうな勢いで伸びています。ただし、次の3指標が低い数値となっています。

- ・「1-2. ライトダウンキャンペーン参加団体」

事業所等における日頃の節電意識は高いと考えられますが、ライトダウンキャンペーンへの参加団体数が伸びなやんでいます。登録・参加について、商工部門と連

携して、事業所等に積極的な呼びかけを行っていきます。

・「2-1. 地球温暖化防止学習会の開催」

出前講座の要望が少ない状況にあります。学校をはじめ公民館での講座など、教育部門と連携しながら出前講座の開催機会の拡大を図ります。

・「4-1. 市全域からの温室効果ガス排出削減」

猛暑・厳冬などの気象条件や景気の動向により、排出量が大きく左右されます。国の温室効果ガス対策に注目しながら、市・市民・事業者等それぞれが取り組めることを検討します。

○プロジェクト項目別実施状況

〔ファーストステップ〕

No	項目	進捗及び平成 25 年度実施内容				
		22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
1101	“とちぎ発” ストップ温暖化アクションの普及（きっかけづくり）	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●	→	→	→	
<p>ストップ温暖化アクションの実施主体は栃木県ですが、市が「環境にっこう」で節電行動への協力を訴えるなかで、併せて本事業への参加を呼びかけました。</p> <p>市独自の温暖化対策事業としては、緑のカーテン各種事業を展開しました（ゴーヤの種配布、講座、公共施設への設置、コンテスト）。</p> <p>また、市役所で、7月～9月にかけて「庁舎内節電対策」に取り組みました。</p>						
1102	エコアイデアの整理・情報提供	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●	→	→	→	
<p>緑のカーテンコンテストを実施し、50点の応募がありました。応募者の取組記録をもとに、緑のカーテンの作り方の工夫点やその効果についてまとめ、ホームページに掲載し情報提供しました。</p> <p>また、「冬の“うちエコ”コンテスト」を実施し、25世帯72人の参加がありました。参加者から寄せられた冬の節電アイデアを集約して「環境にっこう」に掲載しました。</p>						
1103	ライトダウンキャンペーンの普及（きっかけづくり）	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●	→	→	→	
<p>環境省が実施するライトダウンキャンペーンの呼びかけ団体に登録し、ライトダウンへの参加を呼びかける記事を「広報にっこう」に掲載しました。また、市役所内で庁内周知を図り、職員の積極的な参加を促しました。</p>						
1104	太陽光発電（住宅用太陽光発電設置補助、公共施設への太陽光発電施設設置）の推進	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●	→	→	→	
<p>平成25年度の住宅用太陽光発電の設置補助実績は、193件（21,556千円）で、前年度より減少しましたが、全体的には順調に増加しています。</p> <p>平成25年7月に足尾総合支所へ20kWhの太陽光発電を設置しました。市の施設における設置状況は、次のとおりです。</p> <p>【瀬尾浄水場】H13～, 100kWh</p>						

No	項目	進捗及び平成 25 年度実施内容				
	(前頁からの続き)	<p>【リサイクルセンター】H22～, 4kWh 【湯西川水処理センター】H23～, 50kWh 【かたくりの湯】H23～, 100kWh 【足尾総合支所】H25～, 20kWh</p> <p>なお、平成23年度に策定した「日光市庁舎整備指針」の中で、今後整備する総合支所等庁舎には、太陽光発電設備を設置することを定めています。これに従い、平成26年度に新設する藤原消防署には、太陽光発電設備15kWhを設置します。</p> <p>また、栃木県「とちぎサンシャインプロジェクト」と連携し、市内のメガソーラー候補地の受付窓口を設置しています。</p>				
1105	その他再生可能エネルギー利用の検討	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		検討中	実施	→		
		<p>東日本大震災に伴う原発事故以降、再生可能エネルギーへの関心が高まり、国策としても再生可能エネルギーに注力していく状況を背景に、市では、太陽光、小水力、バイオマス等を中心として、市内で再生可能エネルギーの利活用を拡大する手法について、調査・研究を進めています。</p> <p>また、県と連携を図りながら、市内にある有望な発電地点に事業者を募る河川活用発電サポート事業を推進しています。</p>				
1106	エコドライブの普及（きっかけづくり）	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		検討中	→			
	EV・PHV* EV・・・電気自動車 PHV・・・プラグインハイブリッド車	<p>市民を対象としたエコドライブの普及啓発事業について、引き続き実施手法を検討中です。</p> <p>栃木県が「EV・PHV*タウン構想」を重点施策として進めていることを受けて、日光市でもその強化を図るため、先にセカンドステップにあたる「低公害車の普及・拡大」に着手しています（詳しくは後段セカンドステップ参照）。</p>				
1107	住宅用高効率給湯器設置費補助など省エネルギー機器補助制度の検討	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		未着手	実施	→		
		<p>市民の省エネルギー意識が非常に高まっていますが、現在の市民ニーズの中心は、住宅用太陽光発電設備であり、これに重点をおいた施策を進めています。</p> <p>家庭用蓄電池やペレットストーブなど多様な手段について、国内情勢を調査しつつ、太陽光発電設備のほかに市民から求められている支援対象は何であるか、検討を進めています。</p>				
1108	とちぎの元気な森づくり県民税の活用	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施	→			
		<p>平成25年度中に里山林の整備を30.0ha、平成24年度までの整備箇所を201.9ha実施しました。また、森林への理解促進のため、間伐材等を活用した木工教室や、4校が森林環境学習を実施しました。平成26年度以降も、同様の事業を展開していく予定です。</p> <p>【各学校の事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校林環境整備（樹木名板設置、森林環境講話） 				

No	項目	進捗及び平成 25 年度実施内容				
	(前頁からの続き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 植栽環境整備 (植樹活動、食害防止ネット設置他) ・ 間伐材を使用したマイ箸の作成 ・ 木製ベンチ作成 ・ 木材チップによる遊歩道の修繕 				
1109	森林の整備・森林資源の利活用の検討	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●	→	→	→	
		<p>平成 25 年度は、日光市森林整備計画に基づく除間伐 105.29ha に対する支援を実施しました。また、間伐材の利活用については、公共施設で使用する木製ベンチの製作などを実施しました。平成 26 年度以降も、同様の事業の展開及び、森林資源の民間利活用についての啓発等を行なっていく予定です。</p>				
1110	日光市職員エコアクション運動の実践	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●	→	→	→	
		<p>県が呼びかける「エコ通勤統一行動 (年 2 回)」を市職員に周知し、平成 25 年度は 6 月 19 日及び 10 月 17 日に実施しました。エコ通勤実施率は、それぞれ通常時 9% 及び 7% のところ、行動日はどちらも 24% という結果となりました。行動日の取組意識は比較的高く、今後も周知を徹底して、更なる実施率の向上と、通常時の底上げを目指します。</p>				
1111	日光市役所環境配慮率先行動計画の推進	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●	→	→	→	
		<p>平成 25 年度の CO₂ 排出量は 26,333 t-CO₂ であり、基準年度である平成 19 年度の排出量 29,832 t-CO₂ に比べ、11.7% の削減となっています。節電の定着・低公害車の普及などによる削減効果が表れています。</p> <p>環境基本計画では平成 31 年度に 15% 削減という長期目標を掲げており、これに向けて更なる削減を目指します。</p>				

〔セカンドステップ〕

No	項目	進捗及び平成 25 年度実施内容				
1203	低公害車 (エコカー) の普及・拡大	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		検討中	実施 ●	→	→	
		<p>平成 25 年度は、足尾総合支所に急速充電器を設置し、充電インフラの整備によってエコカー利用の拡大を図りました。</p> <p>また、住宅用の自動車用充電コンセント工事補助を実施し、民間主体での充電インフラの普及・拡大を図りました。</p> <p>このほか、エコカー普及のため、市が率先して庁用車に EV を導入しています。</p>				
1205	市役所の温室効果ガス排出削減	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●	→	→	→	
		<p>平成 22 年度から実施している「日光市役所環境配慮率先行動計画」に基づき、市役所からの温室効果ガス排出を削減しています (詳しくは前出「日光市役所環境配慮率先行動計画の推進」参照)。</p>				

(2) 水の環プロジェクト 水環境の保全と活用 ～水の循環を活かしたまちづくりに向けて～

プロジェクトの目標

良好な水環境を保全しながら、保全活動を通じての交流を活発化するとともに、水環境の情報発信を図るなど、豊かな水資源を有効に活用する。

○指標

奥日光の清流保全

1) 奥日光環境保全事業の推進、奥日光清流清湖保全協議会活動への支援

		現状値 (単位)	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	最終31年度
1.コカナダモの除去等による水質浄化対策(機械刈取り)		3 日	5	4 注1)	5	5		拡大検討
2.奥日光第2期計画目標	1.湯ノ湖	2.4 COD	2.2	2.3	2.4			2.0
		0.41 窒素量	0.38	0.33	0.39			0.40
		0.022 有機リン	0.013	0.014	0.017			0.020
	2.湯川	2.7 透明度m	3.8	2.9	2.7			3.6
		1.2 BOD	0.9	0.8	0.9			1.0
		1.9 COD	1.2	1.3	1.6			1.6
2.中禅寺湖	0.007 有機リン	0.005	0.004	0.004			0.005	
	8.0 透明度m	9.3	8.0	8.6			10.0	

BOD: 微生物が水中の有機物を分解するときに消費する酸素
 COD: 薬品を使って測定する消費酸素量
 注1) 機械刈取り以外の日が計上されていたため修正しています。

県の公開時期の都合により、現時点では公表できません。

良好な水環境の保全

2) 公共水域の水質の環境保全

1.公共水域の水質の環境基準達成状況	達成		維持	維持	維持	維持		達成・維持
--------------------	----	--	----	----	----	----	--	-------

3) 生活排水対策の推進

1.生活排水普及率	74.4	%	76.9	78	79	80		77
2.公共下水道水洗化率	87.8	%	89.6	91	92	93		93
3.合併浄化槽の設置基数	2,729	基	3,017	3,168	3,305	3,458		4,340

水の交流づくり(水を守る活動等流域の交流づくり)

4) 水を守るボランティア活動の推進

1.湧水ボランティア数	26	人	31	40	41	39		50
2.水環境保全活動実施回数	10	回	18	13	16	14		30

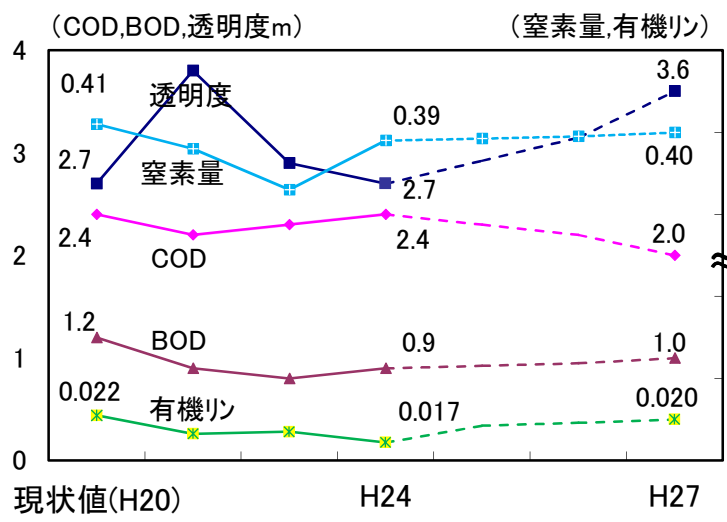
豊かな水資源の活用

5) 豊かな水資源の活用

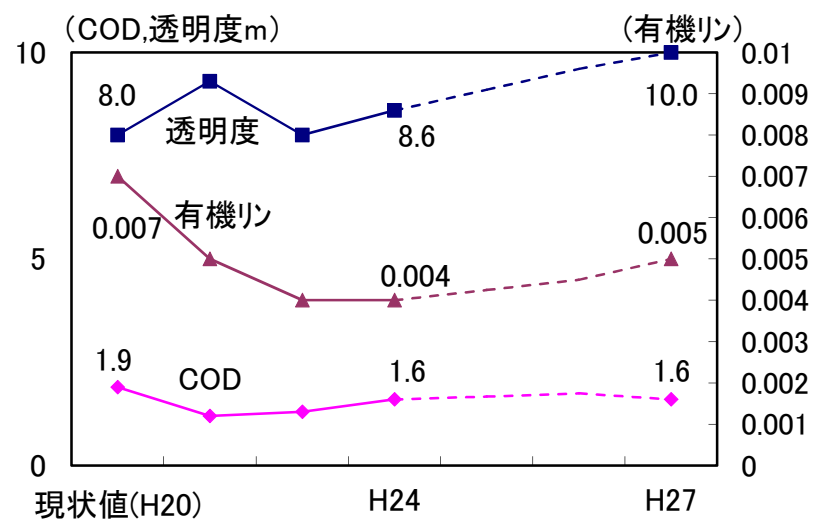
1.おいしい水(水道水)		%	74.0	86	87	96		全水道で基準達成
2.アクアスポットの整備	29	か所	29	29	29	29		39
3.日光の水百選(水資源再発見)				募集中	選定(114風景)			

※については、平成27年度を目安とした目標値です。

【指標名】1-2-1. 奥日光第2期計画目標（湯ノ湖、湯川）

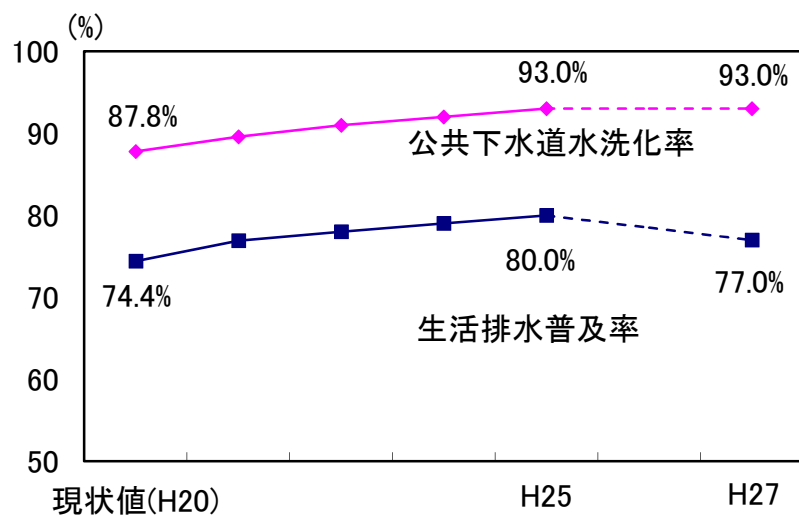


【指標名】1-2-2. 奥日光第2期計画目標（中禅寺湖）

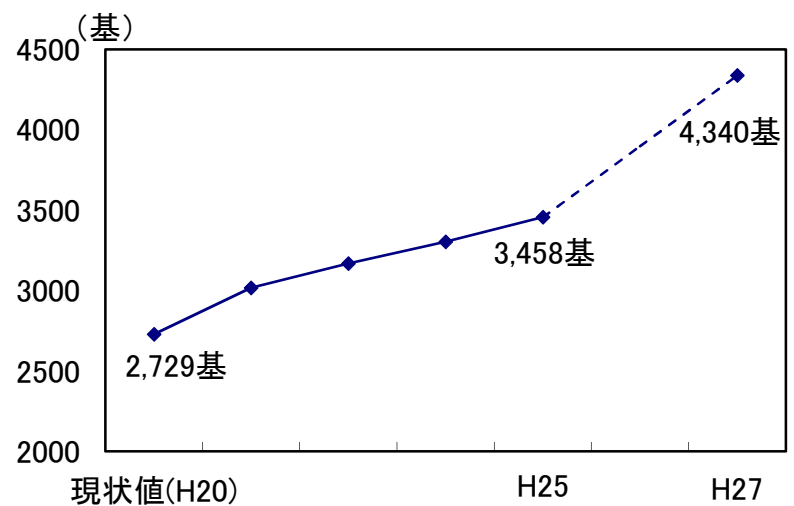


BOD：微生物が水中の有機物を分解するときに消費する酸素量、COD：薬品を使って測定する消費酸素量

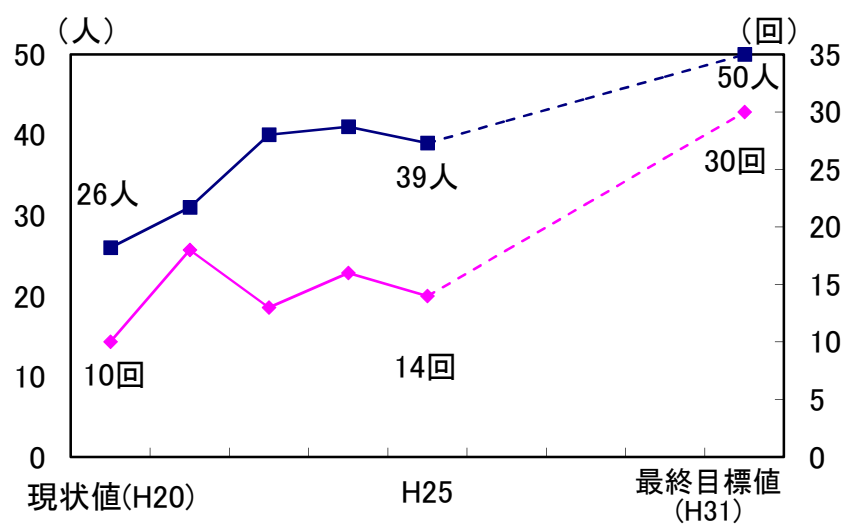
【指標名】3-1. 生活排水普及率
3-2. 公共下水道水洗化率



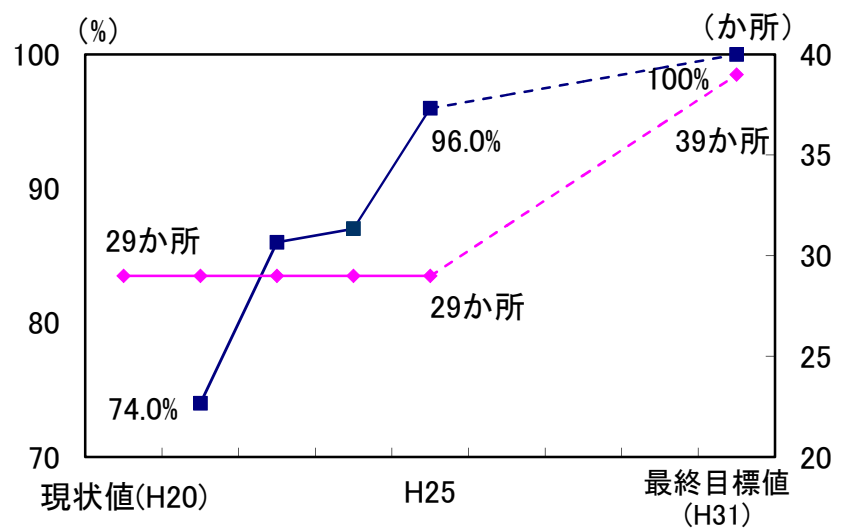
【指標名】3-3. 合併浄化槽の設置基数



【指標名】4-1. 湧水ボランティア数(人)
4-2. 水環境保全活動実施回数(回)



【指標名】5-1. おいしい水(水道水)(%)
5-2. アクアスポットの整備(箇所)



～～ 目標値に対する成果の状況 ～～

奥日光の清流保全や生活排水対策の指標はおおむね良好です。「3-1. 生活排水普及率」「3-2. 公共下水道水洗化率」は、最終目標値を達成しています。ただし、次の指標が低い数値となっています。

- ・「5-2. アクアスポットの整備」

アクアスポット（市内の水飲み場等の総称）として紹介している数は横ばいですが、29か所以外にも、未紹介となっている水の提供場所が考えられることから、整備と並行して更なる調査及び公表に努めていきます。

○プロジェクト項目別実施状況

〔ファーストステップ〕

No	項目	進捗及び平成 25 年度実施内容				
		22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
2101	奥日光清流清湖保全協議会・湯ノ湖中禅寺湖をきれいにする会活動への支援	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●	→	→	→	→
		<p>奥日光清流清湖保全協議会の運営に参画し財政的支援を行うとともに、同協議会の事業である「湯ノ湖水草コカナダモ人力刈取及び湖畔清掃」「水環境学習会（奥日光水辺のたんけん隊）」「奥日光環境学習推進事業（奥日光水環境保全セミナー）」、「奥日光清流清湖フォトコンテスト」等に対して支援しました。</p> <p>湯ノ湖中禅寺湖をきれいにする会及び奥日光水の会についても、それぞれの団体が実施した湖沼水質保全に係る啓発事業や水質調査、清掃活動等に対して支援しました。</p>				
2102	コカナダモの機械刈取りの推進	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●	→	→	→	→
		<p>県と市の共同事業である5日間のコカナダモ機械刈取りに加えて、平成23年度より市単独事業として、コカナダモの流下防止対策を5月から3月まで行いました。なお、春の人力刈取は、コカナダモの生育不良により中止しました。</p>				
2103	湯ノ湖水質保全対策の検討	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●	→	→	→	→
		<p>県・関係機関と連携し、地元を交え水環境保全事業に取り組んでいる中で、水質の変化と原因究明に努めるとともに随時協議し対応をしているところです。</p> <p>湯元水処理センターでは、高度処理によるリンの除去と併せて平成23年度からは窒素除去装置の本格稼動を開始し、湯ノ湖への排出水の水質向上に努めています。</p>				
2104	事業者排水対策の推進（排水調査・環境保全協定等）	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●	→	→	→	→
		<p>市と環境保全協定を締結している工場や事業場から公共用水域に排出される水を定期的に分析し、公共用水域及び地下水の水質汚濁の防止を図ることにより、市民の健康を保護するとともに、生活環境の保全を図っています。</p>				
2105	生活排水対策の推進（下水道整備・水洗化の促進・合併処理浄化槽の整備）	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●	→	→	→	→
		<p>下水道管渠施設整備を推進することにより、供用開始区域の拡大を図るとともに、供用開始済区域内における下水道未接続世帯への戸別訪問による啓発活動を実施しています。</p> <p>合併処理浄化槽設置の促進については、下水道事業計画区域外における設置費補助事業を引き続き実施するほか、補助制度の周知、水環境保全のための合併処理浄化槽への転換や浄化槽</p>				

No	項目	進捗及び平成 25 年度実施内容				
	(前頁からの続き)	維持管理の重要性の啓発を市広報掲載、ダイレクトメールの発送などにより実施しました。 また、下水道と浄化槽による生活排水処理人口の増加を図るため、平成 24 年度より開始した単独処理浄化槽撤去費補助制度を引き続き実施しました。				
2106	農地・水・保全管理事業の推進	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●	→	→	→	
		当事業は、農地・農業用水路等資源の基礎的な保全管理活動や農村環境保全活動に対する支援（共同活動）と、老朽化が進む農地周りの施設の長寿命化のための活動に対する支援（向上活動）とで構成されています。平成 25 年度は、共同活動 25 団体・向上活動 27 団体が実施しました。				
2107	湧水ボランティアによる水環境調査	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●	→	→	→	
		湧水ボランティアの会員数は年々増えており、平成 25 年度は 39 人の方が調査を実施しました。調査回数は年 4 回で、湧水の状況や簡易な水質検査キットによる水質調査も併せて実施しています。				
2108	日光の水百選の選定（再発見）	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		検討中	実施 ●	→	→	
		市内の全 114 風景を選定した「日光水のある風景百選」ブックレット（80 ページ・オールカラー刷）を公共施設や観光案内施設等で無料配布しました。 今後は、百選の環境を保全するとともに、環境をテーマとしたエコツアー等への利活用を図ります。				
2109	『アクアスポット』、日光の水百選の普及啓発	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●	→	→	→	
		平成 24 年度に選定した「日光水のある風景百選」について、観光部門と連携し更なる周知や利活用を図ります。				
2110	水道水の水質検査の公表、水道水のおいしい水基準の達成	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●	→	→	→	
		平成 20 年度より水質検査の公表を開始し、平成 22 年度からは水質検査計画及び水質検査結果を市ホームページ等で公表しています。 水質検査を実施している 52 か所の給水栓はいずれも水質基準に適合しておりますが、おいしい水の基準に適合したものは 50 か所でした。適合していない 2 か所のうち、残留塩素濃度の不適合が 1 か所、硬度の不適合が 1 か所となっています。 残留塩素濃度超過による不適合につきましては、塩素注入機器の注入量の設定等見直しを行い、おいしい水基準達成を図ります。				

(3) 資源の循環プロジェクト ごみ減量の推進 ~3Rによる資源が循環するまちづくりに向けて~

プロジェクトの目標

環境美化意識を高めて清潔な環境を維持するとともに、ごみの減量化と再生利用を進め、ごみゼロを目指す資源循環型社会をつくる。

○指標

3Rの推進(行政の取り組み)

1)ごみの減量化

	現状値	(単位)	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	最終31年度
1.1人1日当たりのごみの排出量	1,177	g/人/日	1,191	1,172	1,196	1,178		1,060
2.年間ごみ排出量	39,908	t/年	39,615	38,567	39,246	38,106		32,422
3.生ごみ処理機器設置補助数	104	件(累計)	153	172	187	205		650

2)リサイクルの推進

1.クリーンセンター等における再生利用率	14.0	%	16.0	15.9	13.6	14.3		24.0
2.クリーンセンター等における最終処分率	13.1	%	5.4	4.6	5.8	5.4		5.0

3Rのしくみづくり(市民・事業者の取り組み)

3)エコショップの普及

1.エコショップ認定の普及	0	店	0	0	0	0		50
2.資源物回収団体活動	50	団体	49	50	49	59		100

環境交流都市 日光クリーン大作戦

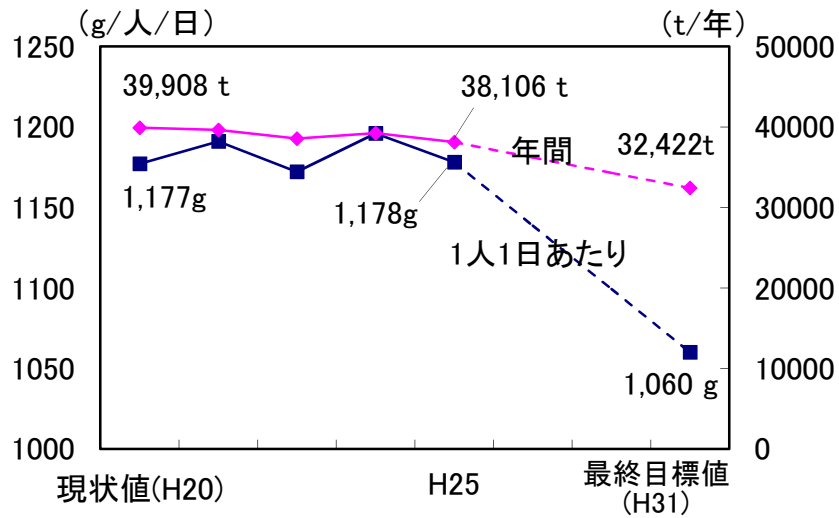
4)全市クリーン大作戦

1.参加団体数・参加者数	167	団体	242	301	263	254		250
	19,444	人	19,701	17,353	18,320	20,896		30,000

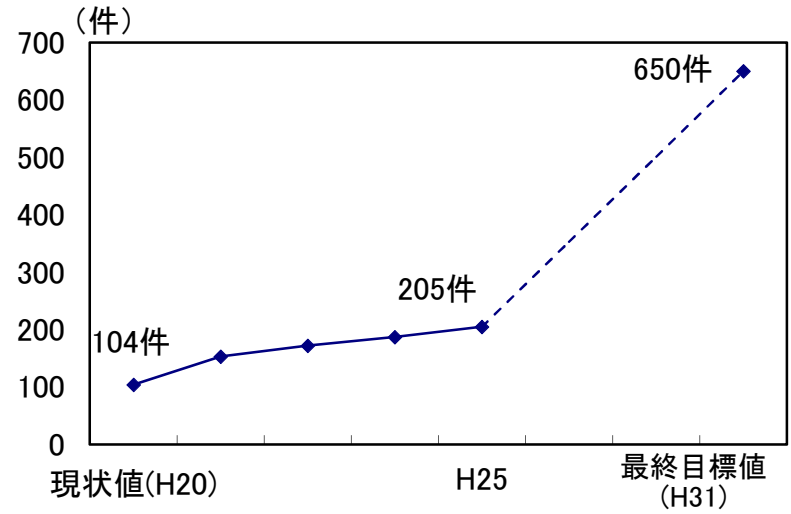
5)クリーンパートナー支援

1.クリーンパートナー団体数	29	団体	39	41	45	43		43
----------------	----	----	----	----	----	----	--	----

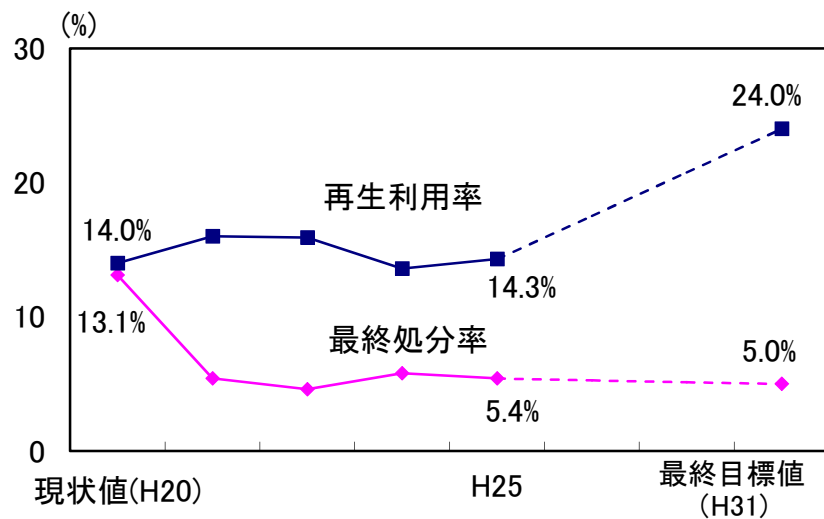
【指標名】 1-1. 1人1日あたりのごみの排出量 (g/人/日)
1-2. 年間ごみ排出量 (t/年)



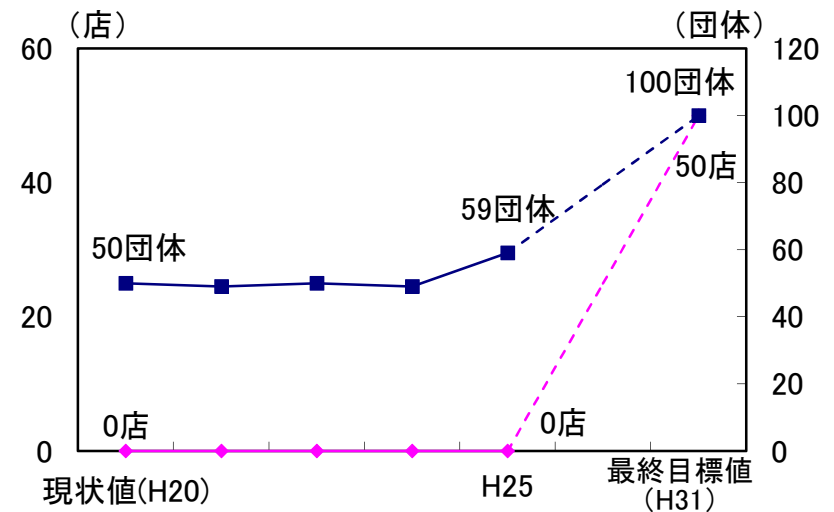
【指標名】 1-3. 生ごみ処理機器設置補助数



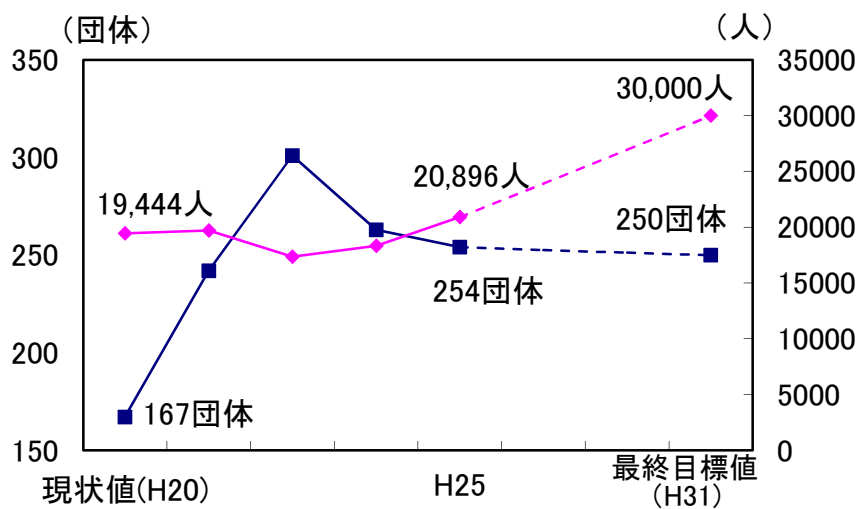
【指標名】 2-1. クリーンセンター等における再生利用率
2-2. クリーンセンター等における最終処分率



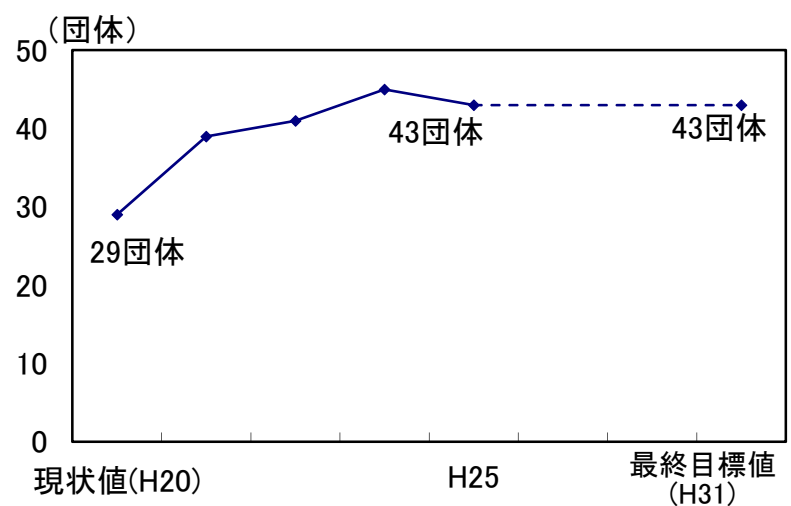
【指標名】 3-1. エコショップ認定の普及 (店)
3-2. 資源物回収団体活動 (団体)



【指標名】 4-1. 全市クリーン大作戦参加団体数・参加者数



【指標名】 5-1. クリーンパートナー団体数



～～ 目標値に対する成果の状況 ～～

全体的に、目標値に対して厳しい状況です。「3-1. エコショップ認定の普及」は、平成26年4月に第1号の認定店が決まります。次の指標が低い数値となっています。

- ・「1-1. 1人1日あたりのごみの排出量」「1-2. 年間ごみ排出量」

平成25年度はその前年度に比べてごみ排出量が減少しましたが、最終目標値とは

大きな開きがあります。継続的に減らしていくために、家庭だけでなく、事業者からの事業系ごみの減量についても、呼びかけ等を検討していきます。

・「1-3. 生ごみ処理機器設置補助数」

最終目標値とは大きな開きがありますが、毎年度着実に設置が進んでいます。環境機関紙「環境にっこう」を利用し、引き続き周知に努めます。

・「2-1. クリーンセンター等における再生利用率」

前年度と比べて、再生利用率が増加しています。しかしながら、最終目標値とは大きな開きがあるため、ごみの減量とリサイクル量の増加を周知し、再生利用率の向上に努めます。

・「3-2. 資源物回収団体活動」

最終目標値とは大きな開きがありますが、前年度に比べ団体数が大きく増加しました。平成26年度からは、協力団体への報奨金上限額の見直しを検討し、登録団体の増加に努めます。

・「4-1. 全市クリーン大作戦参加者数」

最終目標値とは大きな開きがありますが、前年度に比べ参加者数が大きく増加しました。より多くの方にご参加いただけるよう、各地区の環境美化委員と協力して周知します。

○プロジェクト項目別実施状況

〔ファーストステップ〕

No	項目	進捗及び平成25年度実施内容				
		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
3101	ごみ分別の徹底（紙類の4分別など）	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施 ●	→	→	→	
		<p>紙類分別を徹底することで、1人1日当たりのごみ量減少と再生利用率の向上が図れることについて、平成25年度においても、環境機関紙「環境にっこう」による周知を行いました。1人1日当たりのごみ量実績では前年と比減して減少する結果となりましたが、人口減による排出量の減少が影響していると考えられます。</p> <p>引き続き広報紙などによる周知を行いながら、今後は、事業所等への周知についても検討を進めます。</p>				
3102	生ごみの水切り徹底	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施 ●	→	→	→	
		<p>ごみ排出量を減少させるには、生ごみの水切りは非常に有効であるため、前年度に引き続き「環境にっこう」を利用し、引き続き周知に努めます。</p>				
3103	マイバッグ運動の推進	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施 ●	→	→	→	
		<p>環境美化委員による活動と合わせて、ショッピングセンターの店頭において、マイバックキャンペーンを実施し、マイバッグの利用を呼びかけました。（計5回）</p>				

No	項目	進捗及び平成 25 年度実施内容				
		22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
3104	資源物回収団体の普及	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●	→	→	→	
<p>資源物回収団体の普及のため、「環境にっこう」を利用し制度の周知を行いました。資源物回収実施団体の推移は前年から増加し 59 団体となり、資源回収量は、報奨金の上限を 100,000 円に増額したことも影響し、回収量が増加しました。平成 31 年度目標の 100 団体を達成するには厳しい状況となっておりますが、平成 26 年度からは、報奨金上限額の見直しを検討しており、実施内容が決まり次第、各自治会等へ資源物回収報奨金制度について説明を行い登録団体数の増加を図ります。</p>						
3105	生ごみ処理機器設置費補助の推進	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●	→	→	→	
<p>生ごみ処理機器設置費補助の推進のため、「広報にっこう」「環境にっこう」を利用し制度の周知を行い、平成 25 年度の申請件数は前年同数 17 件となりました。</p> <p>内訳は、生ごみ処理機の申請件数が 10 件と増加しており、平成 26 年度も引続き広報等による周知を実施し、生ごみ処理機等の利用による、ごみ排出量の削減を図ります。</p>						
3106	新リサイクルセンターの再編整備	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●	→	→	→	
<p>平成 25 年度は、リサイクルセンター内の旧施設解体跡地に資源物の処理施設とストックヤードを整備しました。平成 26 年度からは、リサイクルセンターの効率的な維持管理を行っていくため、資源物分別部門の民間業務委託の実施を計画します。</p>						
3107	エコショップ認定制度の検討	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		未着手	検討中 ●	→	実施	
<p>平成 25 年度は、要綱を策定し参加店舗の募集を開始しました。平成 26 年 4 月には第 1 号の認定店が決まります。</p>						
3108	クリーンパートナー制度の推進	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●	→	→	→	
<p>活動実績のなくなった団体が含まれていたため、登録団体への確認を実施しました。登録団体数が 45 団体から 43 団体へ減少する結果となりましたが、新たに活動をスタートする団体の登録も得られました。</p>						
3109	環境美化委員活動の活性化	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●	→	→	→	
<p>平成 25 年度は、全支部において支部会を開催し研修会を実施しました。また、ショッピングセンターなどでマイバック推進の啓発活動や、ごみ減量化に向けての研修会も開催しました。</p>						

No	項目	進捗及び平成25年度実施内容				
		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
3110	全市クリーン大作戦の推進	実施 ●————→				
		<p>平成24年度に引き続き、平成25年度も6月実施時には不法投棄された可燃ごみと不燃ごみ、10月実施時には、粗大ごみ、処理困難ごみを対象に実施しました。</p> <p>平成25年度は、悪天候による中止もありましたが、前年と比較すると参加人数は増加しました。今後も市民が参加しやすい方法など工夫をしながら引き続き実施します。</p>				
3111	ごみのポイ捨て禁止の普及・啓発	実施 ●————→				
		<p>全市クリーン大作戦やその他の集団清掃により、ごみのポイ捨て防止等の環境意識の高揚を目指しているところです。また、ごみのポイ捨て防止のため、ごみ捨て禁止の看板貸し出しも行い、平成25年度は20枚の看板を自治会等へ貸し出し、ポイ捨て防止に努めました。今後も、クリーン大作戦等の集団清掃やごみ捨て禁止の看板の貸し出しを行うほか、広報紙を利用した啓発を行います。</p>				

(4) 環境にっこの輪プロジェクト 環境学習・環境情報 ～豊かな環境交流があるまちづくりに向けて～

プロジェクトの目標

環境教育・環境学習を推進し、環境情報を発信することで、一人ひとりの環境意識を高め、環境保全活動の輪を広げる。

○指標

環境教育・環境学習の推進

1) 環境学習機会の充実

	現状値	(単位)	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	最終31年度
1.日光環境学習センターの整備			実施完了	完了				H22年度整備
2.市民対象の環境学習会開催	26	回数/年	36	41	36	30		50
3.『こどもエコクラブ』数	2	団体	2	2	3	3		5
4.環境学習センター来場者数	27,208	人	26,987	20,540	18,692	16,504		50,000

環境にっこの輪(情報交流)の推進

2) 市民による環境交流・環境学習事業の支援

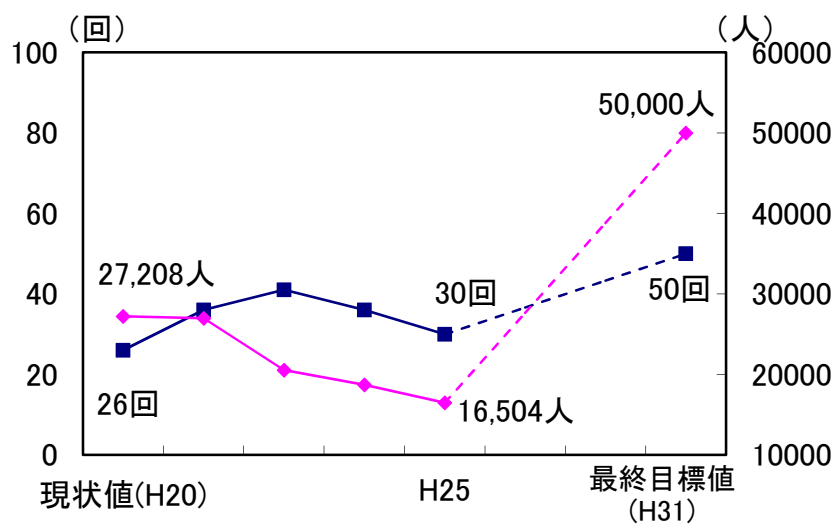
1.(仮称)日光環境会議の設立				未着手	未着手	未着手		H22年度設立
-----------------	--	--	--	-----	-----	-----	--	---------

環境情報の整備

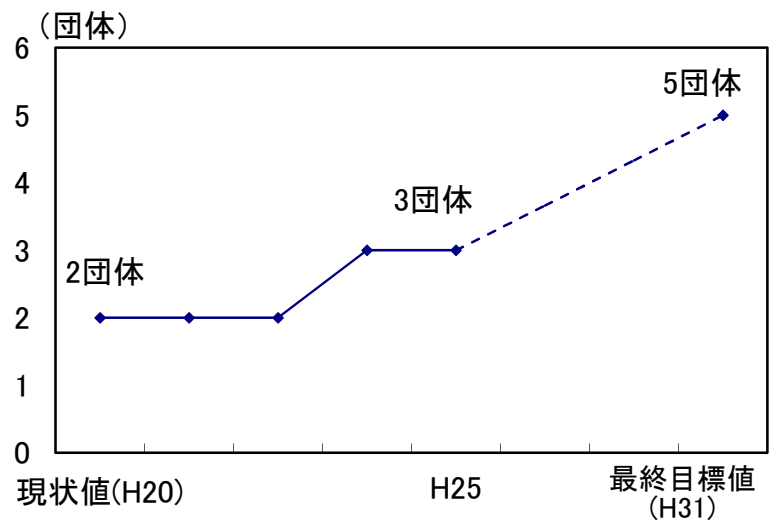
3) 「環境にっこ」等による情報提供

1.環境機関紙「環境にっこ」の発行		発行数/年	4	4	4	4		4
2.事業者向け環境メール発信事業	17	社	19	19	20	21		120

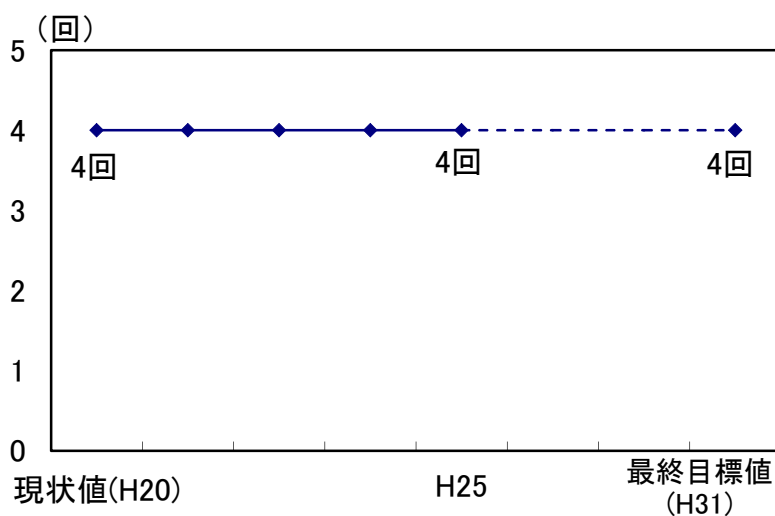
【指標名】 1-2. 市民対象の環境学習会開催（回）
1-4. 環境学習センター来場者数（人）



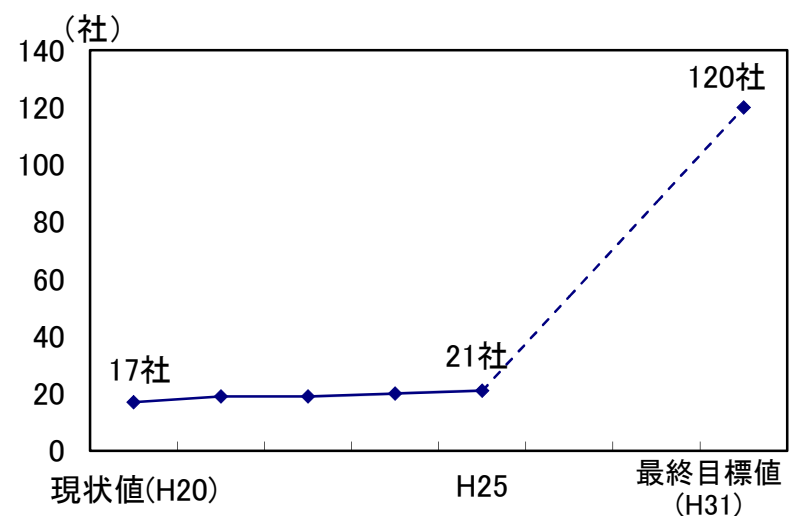
【指標名】 1-3. 『こどもエコクラブ』数



【指標名】 3-1. 環境機関紙『環境にっこう』の発行



【指標名】 3-2. 事業者向け環境メール発信事業



～～ 目標値に対する成果の状況 ～～

順調な指標と不調な指標が混在します。次の指標が低い数値となっています。

・「1-2. 市民対象の環境学習会開催」

市民向けの出前講座を応募する方が減少傾向にあるため、開催件数が減少に転じています。出前講座の内容を検討し、質の向上と周知に努めます。

・「1-4. 環境学習センター来場者数」

来場者数は、日光・足尾の環境学習センターの合算で、9割以上を足尾環境学習センターが占めています。風評被害により修学旅行や社会見学での来場がいったん控えられ、それが継続していると考えられるため、今後もPRの強化に努めます。

・「3-2. 事業者向け環境メール発信事業」

登録事業者数がほぼ横ばいです。商工部門と連携して市内事業者に登録を呼びかけていきます。

○プロジェクト項目別実施状況
〔ファーストステップ〕

No	項目	実施状況及び平成 25 年度実施内容				
		22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
4101	学校間環境学習交流の検討	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		未着手 ●	→	実施 ●	→	
		市内小中学校、保育園、児童館、児童クラブ、公民館などで取り組んだ緑のカーテン作成について、各施設のユニークな活動内容や生育状況を収集・公開し、各施設間の情報交流を図りました。				
4102	日光環境学習センターの整備	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施	完了			
4103	環境学習指導者の把握と活動支援	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		未着手	実施 ●	→		
		日光環境学習センターの解説を担当する自然解説員が環境学習指導者の中心的な存在となって、植物観察会や野鳥観察会等、市の環境学習事業と連携して活動していただいています。				
4104	『こどもエコクラブ』の普及	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●			→	
		平成 25 年 3 月末現在で 3 団体 111 人が活動しています。市は地方事務局として、市内小中学校に普及啓発ポスターやリーフレットを配布、登録クラブに支援物品や関連資料を配布しています。				
4105	出前講座による環境学習の推進	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●	→			
		そばまつりにて、地球温暖化防止のパネル、EV・PHVの展示ブース、手回し発電機器を設け、来場者 113 人に対し環境学習を実施しました。				
4106	環境保全標語の募集・活用	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●	→			
		市内中学校から標語を募集した結果、平成 25 年度は 39 点の応募がありました。その中から最優秀賞 1 点、優秀賞 5 点を選出し、ポスターを作成・掲示し、また「環境にっこう」に掲載することにより、自然環境の保全及び環境美化の促進に係る啓発を図りました。				
4107	環境学習基本方針の策定	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		未着手 ●	→			
		法改正によって、「環境学習基本方針」に代わり「環境学習行動計画」の策定が努力義務となりました。新たに提示された行動計画について、その策定目的や盛り込む内容、策定に必要な条件（協議会の設置等）を研究しながら、策定の是非を含め日光市としてどのように対応していくか検討します。				

No	項目	実施状況及び平成 25 年度実施内容				
		22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
4108	(仮称) 日光環境会議の立ち上げ	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		未着手 ●————→				
		<p>現在、県内に環境会議を設置している市町は佐野市のみとなっています。各団体の情報交換及び連携する場の提供については、法改正を含め取り巻く情勢の変化もあることから、日光環境会議にこだわらず様々な手法を視野に入れ、日光市に適したあり方を検討します。</p>				
4109	「環境にっこう」の発行	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●————→				
		<p>年 4 回発行した中で、平成 2 5 年度の主な掲載内容は次のとおりです。</p> <p>○節電 ○緑のカーテンコンテスト ○うちエココンテスト ○市内充電スポット ○奥日光の湿原 ○環境学習参加者募集 ○奥日光清流清湖フォトコンテスト ○放射性物質自主測定 ○異常水質 ○野焼きの禁止 ○PM2. 5 注意喚起 ○不用品回収業者への注意 ○スプレー缶の出し方 ○ふれあい収集 ○生ごみ処理機購入費補助 等</p>				
4110	事業者向け環境メール発信事業の推進	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●————→				
		<p>平成 2 5 年度登録事業者数は、前年度から 1 事業者増え 2 1 事業者となり、情報発信数は 9 回でした。商工部門と連携しながら登録をご案内するなど、登録数拡大に努め、発信情報の幅を広げていきます。</p>				
4111	学校向け環境メール発信事業の推進	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		未着手 ●————→ 実施 ●————→				
		<p>環境保全標語の依頼、緑のカーテン設置の呼びかけや設置状況の情報交換を行っています。今後も機会をとらえて、各学校に環境情報を発信していきます。</p>				
4112	環境のホームページによる環境情報発信	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●————→				
		<p>環境分野専門のページを設け、随時、最新の情報に更新しています。補助金などの申請書は、ホームページからダウンロードが可能です。平成 2 5 年度末時点で、9 分野 3 1 項目の情報を掲載しています。</p>				

3 今後の取り組み

平成25年度に「検討中」「未着手」となっているファーストステップ3項目のうち1項目「エコドライブの普及」は、平成26年度にエコドライブ講習会を実施する予定です。残る2項目はいずれも「環境にっこの輪プロジェクト」の項目であり、取り組みについて検討を進めます。

また、環境問題は、市民一人ひとりの意識の醸成が課題解決につながることから、できるだけ直接丁寧に呼びかけることを継続し、ご理解いただけるよう努めます。

以下、各プロジェクトについて、今後の強化ポイントをまとめました。

(1) 光の環プロジェクト

- ① 引き続き、住宅用太陽光発電設備を備える家庭が増加しているため、設置補助制度を継続します。
- ② 公共施設を利用した再生可能エネルギーの活用を検討します。
- ③ 県の「EV・PHVタウン構想」と連携して、EV・PHVが走るまちづくりに積極的に取り組みます。市内の充電インフラ整備及びEV・PHV普及を推進するため、急速・普通充電器及び家庭用充電コンセントの設置に対する補助制度を継続し、周知に努めます。
- ④ 太陽光発電以外の再生可能エネルギー（小水力、バイオマス、地熱等）利用について、実用に向けた具体的な検討を進めます。

(2) 水の環プロジェクト

- ① 良好な水環境の保全を最優先課題とし、今後も公共用水域の水質が環境基準を維持できるよう、水質の監視を徹底します。
- ② 奥日光の源流地域の水質悪化は、下流域に大きな影響を与えるため、引き続き地元団体を支援し協力しながら、水質の浄化に取り組みます。
- ③ 小代地区の水田水路に生育する国内希少野生動植物種「シモツケコウホネ」について、水路等の環境や生育状況について専門家による調査を実施したうえで、地元と協力しながら環境保全に取り組みます。
- ④ 平成24年度に選定した「日光水のある風景百選」について、百選ブックレットを配布するほか、専用のホームページを立ち上げ広くPRに努めます。

(3) 資源の環プロジェクト

- ① 市の年間ごみ排出量は、平成25年度に大きく排出量が減少しました。今後も「環境にっこの輪」で生ごみの水きり・減量や、分別・資源化の呼びかけをするなど、ごみ減量を推進します。
- ② エコショップ認定制度は、平成25年度に要綱を策定し、参加店舗の募集を開始しました。認定店を増やしていくことで市民に身近な買い物の場面からエコ意識の浸透を図ります。
- ③ 使用済み小型家電の回収・リサイクルを推進する「小型家電リサイクル法」

が平成25年度からスタートしました。市はこれに対応し、平成25年度中に試験的に回収を実施し、平成26年度から本格実施します。

- ④ 住居周辺を清掃するクリーン大作戦は、普段特に環境美化を意識していない市民にとって、美化意識を持つきっかけとなる有効な事業です。住民同士の活動の輪も広がることから、引き続き全市をあげて重点的に実施します。

(4) 環境にっこの輪プロジェクト

- ① 自然解説員が活動拠点としている日光環境学習センターでの環境学習や奥日光で行われている各種学習事業などを更に充実していくことで、他の環境団体との連携を強化していきます。
- ② 事業者向け環境メール発信や、ライトダウンキャンペーンの参加など、事業者の環境活動への呼びかけについては、商工部門と連携しながら、随時、情報の発信及び活動への理解と協力を依頼していきます。